


講義内容

地域に精通した研究者ならではの講座により、和歌山の歴史や文化を深く学べます。

1 和歌山大学 教育学部 教授
菊川 恵三


紀伊国と古代文学



豊かな水をたたえ、東から西へゆったり流れる紀ノ川。南には峨我たる山並みが果てもなく続く紀伊山地。和歌山はこの二つの景観から成りたっています。万葉の旅人は紀ノ川を下り和歌浦に至り、さらに山を越えて南紀をめざしました。和の大のある高台からは、眼前にこの風景を望むことができます。また西に広がる海は、土佐守の紀貫之も通ったのです。

2 和歌山大学 教育学部 准教授
米田 頼司

和歌の浦と和歌祭



和歌の浦は万葉集に詠まれた名所として有名ですが、紀州徳川氏はとくにこの地を選んで家康を祀る東照宮を建立しました。元和7年(1621年)のことで、和歌祭はこの紀州東照宮の例祭ですが、最近の研究で異例の民衆参加の大祭であったことが明らかになってきました。和歌の浦とこの有名な名所に誕生した異例の大祭である和歌祭についてお話します。

3 和歌山県文化財センター 評議員
立花 秀浩

城下町和歌山と徳川吉宗



城下町和歌山は豊臣秀吉が命名した秀吉ゆかりの地です。しかし、豊臣氏滅亡後は浅野氏・紀州徳川氏が和歌山を支配し、城下町を拡張していきます。徳川吉宗は紀州徳川氏2代目光貞の子として生まれました。成人して紀州5代藩主、8代将軍になりますが、それまでは城下町で育ったのです。和歌山で育った子どものころの様子を中心に吉宗の実像に迫ります。

4 和歌山大学 教育学部 教授
海津 一郎

太田城水攻めと雑賀衆



1585年4月、羽柴秀吉は「雑賀惣国」太田の地で空前絶後の水攻めを実施しました。中世の武装自治から、近世の平和統合へと歴史の変革を、現存する堤防遺跡(出水堤防)を科学的に分析することによって解明します。また、1916年論文「太田城水攻めについて」を発表した「謎の研究者X」についても初めて光を当てます。

5 和歌山大学 観光学部 准教授
東 悦子

紀州と移民 -百年にわたる文化交流-



日本から世界各地への移民が始まったのは明治の頃です。和歌山県は全国的にも有数の移民県として知られ、県下には移民母村と呼ばれる地域があります。主に、日高郡美浜町三尾地区、東牟婁郡串本町、太地町及び那智勝浦町を取り上げ、各地域と移民先の特徴を踏まえつつ、紀州和歌山から移民として世界各地に渡った先人達の、百年におよぶ文化交流の歴史を概観します。

6 和歌山大学 観光学部 准教授
神田 孝治

南紀白浜温泉の形成とイメージ



観光客は非日常性を求めると言われています。それでは、観光客が観光地に求める非日常性とはどのようなものなのでしょうか。またそれは、観光地の形成にかなりの影響を与えているのでしょうか。本講義では、こうした問題について、イメージに注目して観光地の形成過程を検討するなかで考察します。事例としては、近代期の南紀白浜温泉を取り上げます。

7 和歌山県立博物館 学芸員
大河内 智之


世界遺産・熊野の歴史と魅力



平成16年に世界遺産に登録された熊野三山(熊野本宮大社・熊野速玉大社・熊野那智大社・那智山青岸渡寺)。かつて熊野はこの世にある浄土と考えられ、「蟻の熊野詣」といわれるほどにたくさんの人々が救いを求めて参詣しました。そして現在も癒しの地として多くの人々の心を魅了しています。重層的な熊野の歴史と文化を紐解き、その魅力の源泉を探ります。

8 高野山大学 文学部 教授
武内 孝善


弘法大師空海の生涯とその教え



804年唐にわたり、最新の仏教=密教を持ちかえって真言宗を開いた空海。その62年の生涯は謎だらけです。なぜ、空海は高野山に伽藍を建てたのか、空海にとって高野山とはいかなる場所であったのか、を中心に、その生涯を概観いたします。あわせて、空海の教えの根幹をなす宇宙観・人間観についてお話しいたします。

9 高野山大学 文学部 教授
山陰 加春夫


キリスト教宣教師の見た高野山



16~17世紀に来日したキリスト教宣教師の眼に写った高野山。そこは、中世ヨーロッパ型の大きな大学(ユニバーシティ)であるとともに、弘法大師という救世主をいただく聖なる共和国でした。本講義では、これらのことをわかりやすく解説することを通して、高野山が1200年の時を経て今なお健在な理由を探ります。

10 和歌山大学 経済学部 准教授
鈴木 裕範

熊野・食文化の風景



明治の文豪幸田露伴は、「紀州に過ぎたるものがふたつある」と言った。そのひとつが、「なれずし」です。熊野に伝承される「なれ」の文化、それは日本の古代に遡り、あるいはその源流はアジアの森にと繋がっています。そして里芋文化に柚べしの文化一、この授業では、食文化の風景をとおり、食と熊野、地域について考えていきます。

11 和歌山大学 観光学部 教授
藤田 武弘

農山村の資源と地域再生



いま、わが国の農山村は存続の危機を迎えています。一方で、世界的な食料危機や食の安全確保に対する不安を背景に、自給率向上や地産地消、スローフードへの期待が高まり、「食」の背後にある「農」の営みや農山村での暮らしへの関心が広がっています。地域資源の宝庫・和歌山で、それらを活かした「地域再生」の取り組みの意義について考えてみたいと思います。

12 和歌山大学 経済学部 准教授
足立 基浩

学生たちの挑戦、中心市街地活性化



中心市街地の回遊性の増大を目標とし、和歌山大学の学生と市民NPOが中心となってまちづくりオープンカフェWithを実施して5年が経過しました。この間、市民参加を基本テーマに「裁判官カフェ」「沖縄カフェ」「物産カフェ」「バリアフリーカフェ」など様々なカフェを実施してきました。中心市街地の回遊性は増加したのか?写真と最新のデータを交えて講義いたします。

13 和歌山大学 観光学部 教授
尾久土 正己


高野山から宇宙へ



世界遺産「高野山」は当時の仏教の宇宙観を地上に再現した言わば「宇宙の最先端研究所」でありました。今、宇宙観測の最前線では120億光年を超える宇宙初期の天体や、太陽系外の惑星の姿を明らかにしようとしています。和歌山は大都市大阪から比較的近いにも拘わらず紀伊半島の聖地とともに美しい夜空が残されています。曼荼羅から現代の宇宙まで、和歌山から考えてみましょう。

14 和歌山大学 生涯学習教育研究センター 教授
堀内 秀雄

地域を創る学び、ヒトが育つ地域



人生は自己紹介の連続です。「地域づくりは人づくり」といいます。そこには、地域の歴史と住民たちの人生が凝縮しています。なぜ、地域の原風景が疲弊したのでしょうか。地域を創る学びのシステム、ヒトが育つ地域の構造化、という2つの視座から、地域再生の現代的条件を共に探りましょう。

特別講義 **1** 高野町 副町長
高橋 寛治

世界遺産高野山と未来への夢



高野山は、今から1200年前に弘法大師空海が拓いた真言密教の根本道場です。開創以来、幾多の歴史の渦の中で今日を迎えましたが、町の中には「全山借地」に代表されるような前近代の仕組みが残されています。これを現在の視点で読み直すことは、未来への可能性を導き出すことにつながります。過去に学びながら高野山の未来について、一緒に考えてみたいと思います。

特別講義 **2** 農業法人株式会社秋津野 代表取締役副社長
玉井 常貴


秋津野塾・未来への挑戦



秋津野(田辺市上秋津)地域は住民による地域づくりの先進地。地域づくり組織「秋津野塾」の設置、和歌山大学との連携による「マスタープラン」策定、地元農家中心に立ち上げた農産物直売所「きてら」と加工グループとして発展した「俺ん家ジュース倶楽部」、旧小学校木造校舎を活用した「秋津野ガルテン」オープンなどこれまでの取り組みと今後の地域戦略を語ります。

特別講義 **3** 和歌山県世界遺産センター センター長
辻林 浩


熊野古道・世界遺産への道と行方



世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」は、紀伊山地という豊かな自然の中に立地し、今日まで霊場としての宗教景観を伝え、参詣道の沿道には農山村集落が展開し、農林業を通じた文化的景観が広がります。この霊場と参詣道がどのような経緯で世界遺産に登録されたかを振り返り、線状に延び、広域にわたる熊野古道を、今後どのように保護・保全を行えばよいのかを考えます。

特別講義 **4** 湯浅町商工会 事務局長
谷中 敬治

湯浅のまちづくり



醤油発祥の地であり、商業の中心地として栄えてきた湯浅町中心地の衰退傾向が著しくなったので、平成14年度から「身の丈にあった事業」を真面目にひたすら積み上げる手法で、まちづくりを進めてきました。約70事業を積み上げた結果、来町者は10万人以上増え「人びとが訪れる趣のある美しい、元気な町」に近づいてきました。この湯浅再生について「地域再生の苦勞と喜び、そして王道」を語ります。